

## 奈良市が目指すもてなしのまちづくり

町田正

奈良の地には、多くの観光資源が存在しています。それは国家の出自そのものにかかわる壮大な源流の叙事詩を内包していますが、多くの日本人は、学んだはずの歴史と、いま目の前にひろがる歴史遺産が頭の中でうまくリンクしない人が多い、そんな気がします。その点、訪れる外国人観光客は、より意義深い観光旅行を楽しんでいるように思うのです。

それは必ずしも日本人の歴史教育が不十分なせいも、明らかではありませんが、本市の義務教育として、これら誇るべき歴史的遺産に直結する歴史教育の強化を提案いたします。

歴史教育とリンクして、社会奉仕活動としての歴史遺産の清掃を、本市における義務教育課程のカリキュラムに編入する事を提案いたします。観光資源の保全という見地を以って、本市の小中学生等に教育的指導を施すことができるものと思料いたします。

本市では、既存のアドバンテージを最大限に発揮しつつ、他方において、全国に先駆けた新しい取り組みにいち早く着手し、注目を集めることが肝要です。注目されやすいトピックスを創造するのです。何事もいち早く着手しなければ話題にはなりません。このトピックスの創造は、当該委員会の重要な役割のひとつであるものと考えます。

但し、われわれの議論は、直近の課題と中長期的な課題を明確に分けなければなりません。例えば、本市を悩ます慢性的な交通渋滞の緩和が指摘されて久しいですが、直近に実行可能である地道な取り組みと、中長期的な交通インフラの整備とは別の議論です。地味であるが直近で実行できる小さな取り組みの数々もまた大切なことです。

さて、さいたま市から本市に転入した私が、「大阪に住みたいとは思わないが、奈良は永住候補地である」と考える理由は何でしょうか。この点を精査することが、私にできる直近の研究課題であり、奈良市が目指すもてなしのまちづくりのための重要なヒントが隠されているのではないのでしょうか。

本市の取り組むべきもてなしのまちづくりは、端的に 2 本柱であるべきです。1 つは、既存のアドバンテージを最大限に発揮しつつ更なる進化を期すべき観光施策です。そして、大都市のベッドタウン化が進む本市の転入者に対するもてなしを忘れてはなりません。これら転入者の納税貢献度は高く、今後の本市におけるまちづくりにおいて、大きな存在感を示すことになるでしょう。

以上

平成 19 年 6 月 12 日